

「災害レジリエンスの実現に向けてー共創・国際・実装の取組みー」

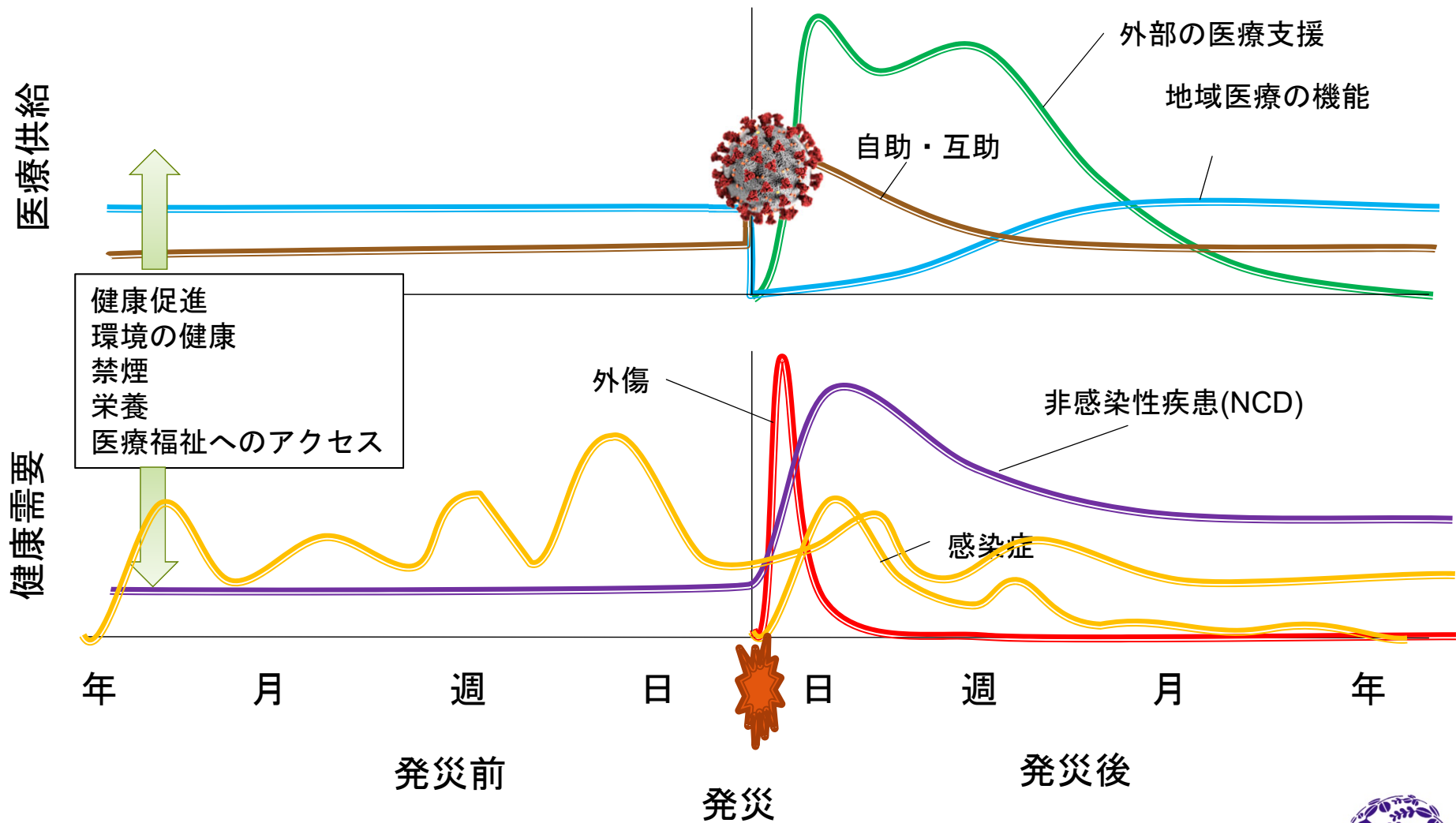


東北大学

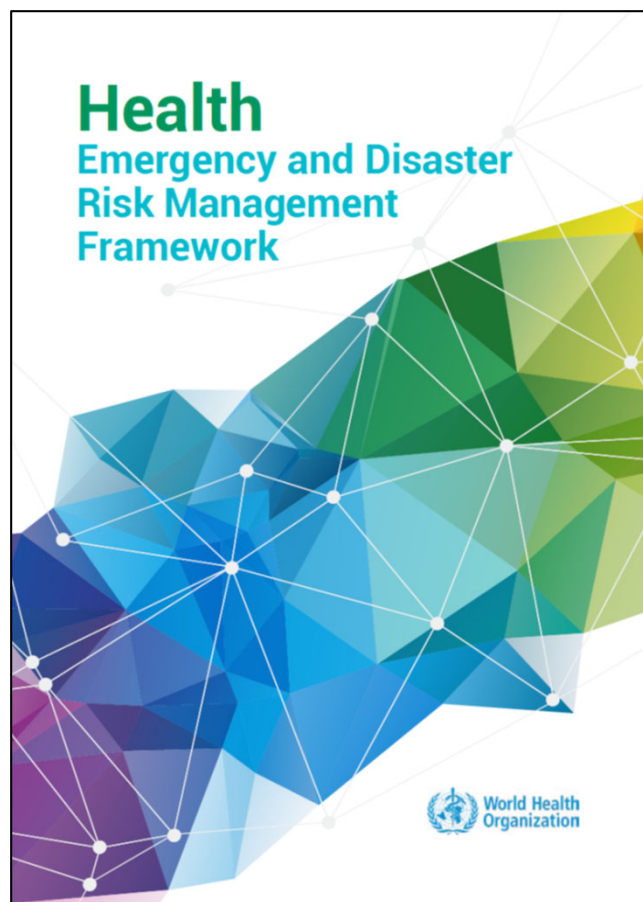
## 災害医療と国際連携

東北大学災害科学国際研究所  
災害レジリエンス共創センター長  
災害医療国際協力学分野  
江川新一

# 高齢化社会・感染症存在下における医療ニーズ

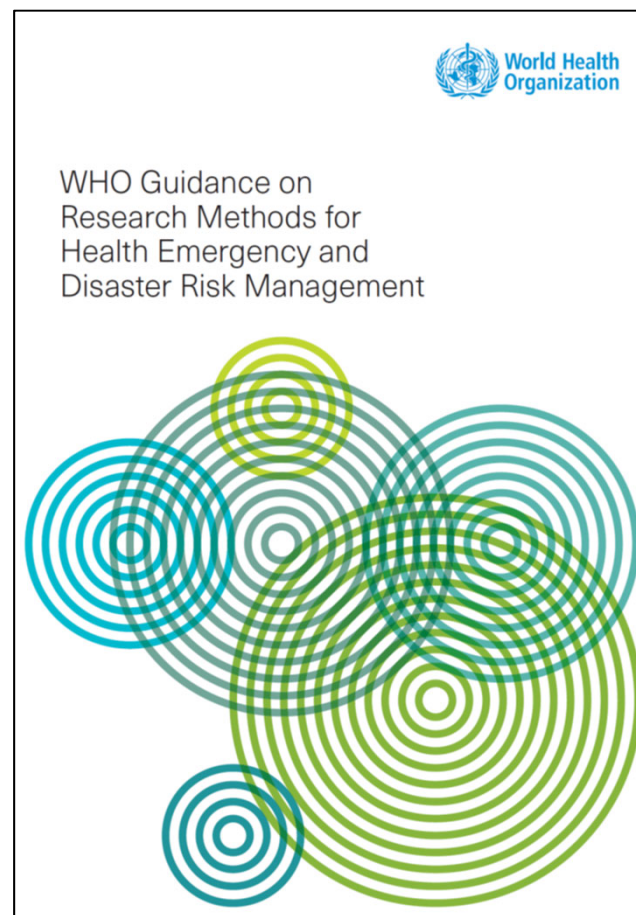


# 災害・健康危機管理には災害医学研究が必須



災害・健康危機管理(H-EDRM)枠組

<https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/326106/9789241516181-eng.pdf>



H-EDRM研究ガイダンス

<https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/345591/9789240032286-eng.pdf>

# H-EDRM枠組の原則とアプローチ

From		To
イベント中心 Event-based	➡	リスク中心 Risk-based
対応中心 Reactive	➡	予防中心 Proactive
一種類のハザード Single-hazard	➡	オールハザード All-hazard
ハザードに焦点 Hazard-focus	➡	脆弱性と対応能力に焦点 Vulnerability and capacity focus
一団体 Single agency	➡	社会全体 Whole-of-society
縦割りの責任分担 Separate responsibility	➡	保健医療関係者の責任分担 Shared responsibility of health systems
対応に焦点 Response-focus	➡	リスク管理に焦点 Risk management
地域社会のために計画 Planning for communities	➡	地域社会とともに計画 Planning with communities

WHO H-EDRM Framework 2019

# H-EDRM研究WHOガイドンス

全7章(634ページ)

## 目次、略語集、用語集

### 第1章 序論

- 序論
- 背景：災害・健康危機管理研究について
- 災害・健康危機管理の政策と研究の歴史的発展：日本の事例に学ぶ

### 第2章 課題の同定と把握

- 疫学的手法を用いた災害の影響の評価
- 災害の健康影響の評価
- 疾病負荷：エビデンスを創出し、政策を導く
- 災害疫学のツール：データベースと登録
- ハイリスクグループの特定と災害研究への参加促進

- 科学的エビデンスの現状：エビデンスとシステマティックレビューの位置づけ
- 研究の優先順位

### 第3章 研究スコープの決定

- 結果の評価およびステークホルダー参画の検討のためのアセットマッピング
- 災害のリスクファクター：ハザード、曝露と脆弱性
- 災害・健康危機管理における研究的介入のデザイン
- 研究倫理
- リサーチクエスションの決定
- 課題の評価とスコーピングレビューの構築
- 政策と新規研究をサポートする研究リソース

# H-EDRM研究WHOガイドランス

全7章(634ページ) つづき

## 第4章 研究デザイン

- 介入評価の研究デザインの基本原則
- 課題の評価：基本的統計
- クラスタランダム化比較試験
- 良質なデータの収集と管理
- 発展的統計テクニック
- 健康関連リスクのモデル化
- 災害・健康危機管理における経済的影響の評価
- 地理情報システム
- リアルタイム症候群サーベイランス
- 災害・健康危機管理の介入の研究と評価へのロジックモデルの利用
- 災害・健康危機管理における広報・情報共有に関する研究と研究についての広報・情報共有
- 質的研究
- 混合研究法を用いた複雑性への対処
- 災害下における自然実験
- 観察と評価

## 第5章 研究プロセスと研究成果を論証する特別テーマ

- 災害メンタルヘルス研究
- クラウドソーシングを用いたデータ収集
- 難民および国内避難民
- 先住民

## 第6章 新型コロナウイルスパンデミック

- COVID-19下における災害・健康危機管理研究

## 第7章 研究者の手引き

- 研究者として成功するために
- 既存の研究報告の検索とアクセス
- 有効な研究グラント申請の書き方
- 倫理審査による承認取得
- 災害・健康危機管理におけるフィールド研究
- 研究論文の書き方
- 災害・健康危機管理研究をすること

# 翻訳監修

プロデューサー：茅野龍馬

監修責任：江川新一

監修分担（分担章順）：

- WHO神戸センター：茅野龍馬
- 東北大学：佐々木宏之、伊藤潔、杉浦元亮、栗山進一、藤井進、エリック・マス、稲葉洋平、鈴木正敏、國井泰人、佐藤翔輔、セバスチャン・ペンメレン・ボレー、児玉栄一
- 慶應義塾大学：野村周平
- 東海大学：金谷泰宏
- 浜松医科大学：尾島俊之
- 兵庫県立大学：増野園恵
- 東京慈恵会医科大学：越智小枝
- 日本赤十字広島看護大学：高田洋介
- 岡山大学：原田奈穂子
- 国立病院機構本部DMAT事務局：赤星昂己
- 広島大学：加古まゆみ、久保達彦
- 京都大学：大鶴 繁
- 熊本大学：内藤久貴
- 高知県立大学：木下真里
- 新潟大学：高橋昌
- 兵庫県災害医療センター：川瀬鉄典、甲斐聡一郎

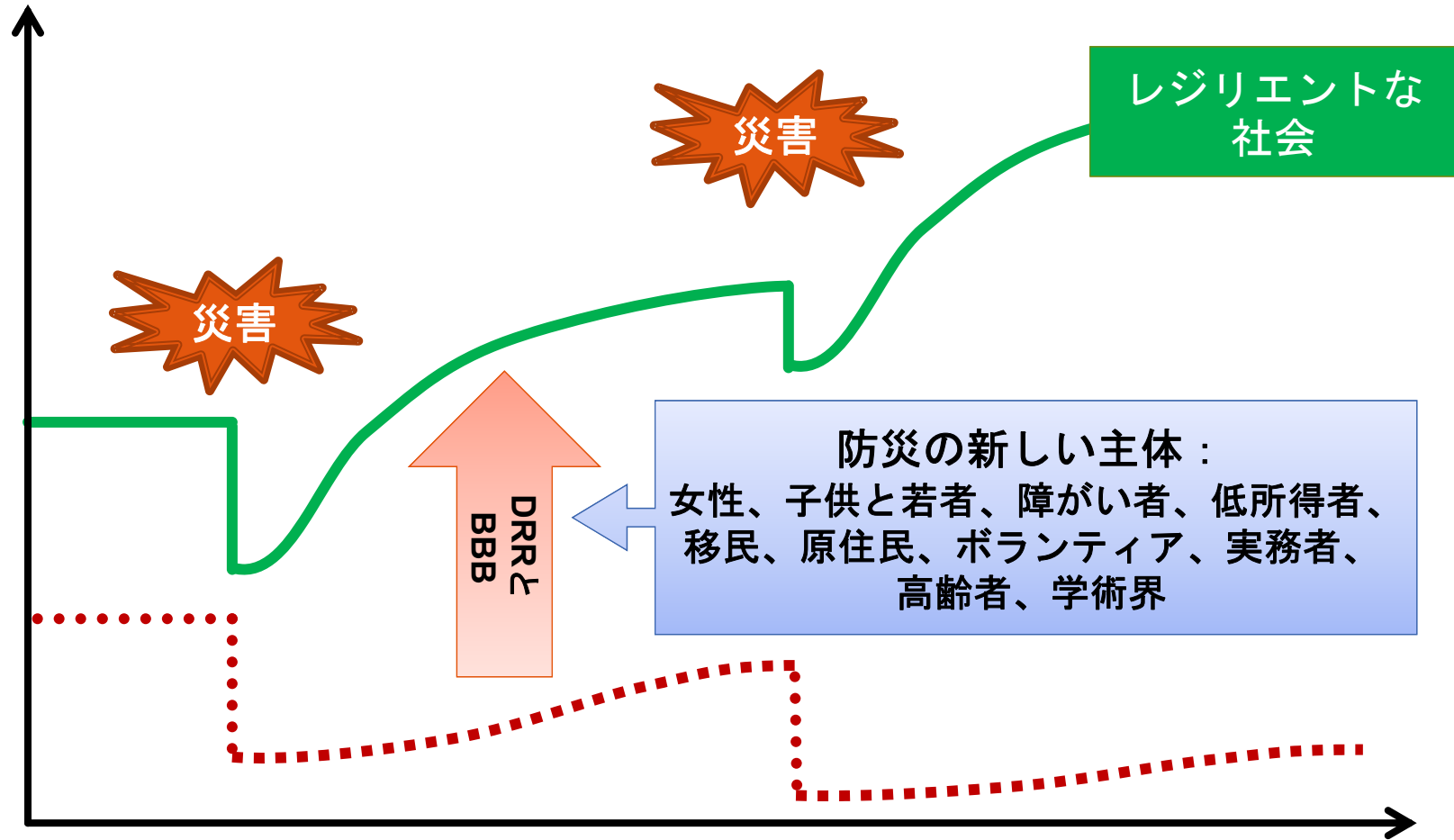
日本語でわかりやすい表現をめざした。

用語集・略語集には根拠となる日本語の参考文献を提示。

2022年内に翻訳完了予定。

地域社会の  
資源や機能

# レジリエンス



防災(DRR)とよりよい復興(BBB)が社会をレジリエントにする。



# 国際連携のもつ意義

## 何がわかっているか

- 健康とは、身体的・精神的・社会経済的なウェルビーイング
- 平均寿命の長い社会は災害に対してレジリエントな社会
- グローバルな協力なしに災害・健康危機管理は不可能

## どうすればよいか

- 世界に類をみない日本の高齢化状況において、世界に助けられながら、ひとりひとりがしなやかに災害を乗り越えられるレジリエンスを身に着けられるような防災科学と防災マインドが必要
- 防災への投資は、同時にウェルビーイングを増進する投資であるべき
- ウェルビーイングは多様な価値なので、ひとりひとりが防災の主体であるべき
- 災害時の課題と平時の課題を同時に解決するべき